

令和2年度天皇杯受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

若者の目もキラキラ 世代を超えて自発的に取り組むむらづくり

○集団等の名称 高根フロンティアクラブ（代表 鈴木 信之）

○所在地 新潟県村上市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

村上市は、新潟県北部に位置する。同市高根地区は特定農山村地域・振興山村地域・過疎地域・特別豪雪地帯に指定される山間農業地域であり、水稻を主とする農業と林業が営まれている。

小学校の廃校や農業後継者の減少など集落の存続が危ぶまれる状況から、自分たちの手で地域の自然を守り、自ら地域を変えていこうとする集落の有志により「高根フロンティアクラブ」が平成8年に設立された。

・むらづくり組織の概要

高根フロンティアクラブは、20～60歳代の地区の有志43名で構成されており、地域外への情報発信及び地域内外の交流促進の役割を持つ組織である。地区内の他組織と連携・合同で事業を実施しているほか、地域外の応援団とも連携して地域活性化に取り組んでいる。

また、同クラブの活動が刺激となり、平成28年に40歳代以下の若手が「（一社）高根コミュニティラボあら」を立ち上げ、むらづくり活動を展開している。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

- ① 棚田の耕作状況調査等を通じ、後継者育成や米作りサポートなどの耕作支援と直接販売の販路拡大支援の両面が重要であるとの考えに至り、棚田米の販売や稲作サポートを組み合わせた「準村民制度」の創設に向けて活動している。
- ② 廃校を利用した農家レストラン「IRORI」では地元産そば粉100%の手打ちそばが好評であり、校舎内の加工場で生産したどぶろくなど6次産業化にも取り組んでいる。
- ③ 東京都墨田区の商店街との交流により、棚田米や新たに開発した特産品などを販売する「高根物産展 山里の収穫祭」が開催され新しい販売の流れになっている。

（2）生活・環境整備面

- ① 地域の課題を整理し、10年後を見据えた「たかね みらいづくりビジョン」を活動方針として決定。ビジョンの柱の1つを「新しい寄り合いづくり」とし、空き家を活用した集落の人が手軽に集える場と機会を提供。集落の子供の勉強や遊び場、高齢者の介護予防としてのお茶のみ場づくりに意欲的に取り組んでいる。
- ② 都会の人が高根の暮らしを体験するなかで交流を深め、地域の担い手を増やすことに繋がる取組として、空き家を整備し、体験プログラムの企画・実施を行っている。現在、2人が定住して農林業の担い手となっている。
- ③ 首都圏の大学生や企業と連携し、ブナ林・どんぐりの森づくりを行い、学生、社員やその家族が定期的に訪れるようになり、都市との新たな交流を創出。高根に魅せられ、移住する若者や地域おこし協力隊の若者の増加に寄与している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、都市と農村の交流の場作りにより他地域からの住民の移住に成功している事例であり、今後の取組の発展が期待できる。

若い世代を含む住民が地域の課題を共有し、納得したうえで自発的に活動し効果をあげている本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。